

環境未来館 ビオトープ物語 ④



未来の泉 を魅力的に

今回は、ビオトープ 未来の泉 をどう育てていくか、今後どういう活動をしていくか、について触れておきましょう。

ビオトープの維持管理には多くの人手と時間が必要です。広く市民に呼びかけ、サポーターを増やしたいと思えます。神戸市が取り組んでいる「水辺ネットワーク」への参加も検討しています。神戸市内の小学校には100箇所ほどビオトープが設置されていますが、きちんと管理され、機能している所は少ないようです。こうした小学校のビオトープ管理のお手伝いをするのも、大事な活動目標です。アメリカザリガニ、ブルーギ



ルなどを絶対に入れないといったことや、雑草取り、水の管理といった日常的な助言も必要でしょう。要望があれば、メダカやドジョウを譲ってあげて増やすことも考えています。未来の泉では、3月に100尾放流したカワバタモロコ（コイ科の魚で絶滅危惧種）が、数百匹にも増えています。“供給”することも

可能なのです。池の周りに生垣を設けたり、巣箱を架けたり、ガガブタ・ジュンサイ・タコノアシなどの水生植物を植えたり、未来の泉をより魅力的に整備することも着々と進めています。

未来館全体の見学者、リピーターを増やすことも課題です。池で魚採り体験をしてもらう、ペットボトルでおもちゃ作り

を体験してもらう、といったメニューを用意して市内の小学校などに呼びかけます。未来館の入館者がふえれば、ビオトープへの関心も高まるからです。

（グループわ・三島隆夫）= 写真は未来館提供

里山助成金 活用内容固まる

チェーンソー、炭焼き窯など購入

グループわに、交付されることが決まった平成22年度「里山ふれあい森づくり（住民参画型）助成金」（350万円）の活用について、プロジェクトチームで検討を進めていましたが、このほど、その内容がほぼまとまり、交付申請の手続きに入りました。認許されれば近日中に里山整備機材・利活用施設の購入・発注をしていきます。おもな内容は次のとおり。

里山整備に必要な資材機材関連 = 山林用チェーンソー3台、刈払い機2台、多目的ウィンチ1組、山林用のこぎり、

鎌、なた、チップーシュレッダー（5馬力）1台、安全講習受講費、物置ほか。

里山利活用施設関連 = 里山内設置テーブル・椅子セット1組、樹木名札表示資材、野鳥観察用説明看板1組、小形炭焼き窯1台など。

これらの機材で活動を始めます。『自然体験学習の森づくり』や『木炭・竹炭を使ってしあわせの村の池・小川の水質浄化作戦』などに取り組みたいと思っています。実際の作業はかなりの人手が必要で、みなさんの応援をお待ちします。（問い合わせはプロジェクトリーダー・菅田忠志まで。 792-5811）

中央区会が旧居留地ツアー

中央区では第1土曜日に定例会を開いていますが、12月は早めに切り上げ、旧居留地の見学ツアーをしました。参加者は10名。案内役は観光ボランティアをされている藤井さん。よく勉強されていて、説明も判りやすく、神戸で生まれ育った私が知らないことも多く、新たな発見をすることができました。

大阪商船ビルの建物を見て、外国航路の無線技士をしていた義理の祖父の船が、出航するたびに、見送りに行っていたことを懐かしく思い出したことでした。地下鉄みなと元町駅も利用するたびに、「変わった建物だな」と思うくらいでしたが、明治に建てられた第一銀行の外壁の一部を使っているというお話を聞いてびっくり。神戸っ子の私にも楽しい見学会でした。（生環9期 手島道子）

2月に地域交流と文化の祭典

グループわ文化部会が2月19日（土・10時～15時30分）、シルバーカレッジで「地域交流と文化の祭典」を開催します。入場無料。14サークルと星和台、泉台の地域グループが参加。ホールで合唱・手話コーラス・民謡・大正琴・ハワイアン・銭太鼓・マジック・南京玉すだれ・紙芝居などのパフォーマンスを披露するほか、ロビーでは手芸・折り紙・書道作品の展示をします。地域社会との交流をめざそうと文化部会が初めて取り組むイベントです。